

第2章 横浜水道の歩み

戸数わずか 100 戸ばかりの静かな村であった横浜は、安政5年（1858 年）、徳川幕府が日米修好通商条約を締結して開港地に定めたことにより、人口が増加し、市街地が発展するなど、急成長を遂げました。

当時住民は、水を求めて井戸を掘りましたが、横浜は沼地や海岸を中心に埋め立てて拡張されてきたので、海水が混じるなど飲用に適した良質な水に恵まれていませんでした。

そこで人々は、水売りから水を買ったり、木の樋で川から水を引いたりしましたが、これもきれいな水ではありませんでした。華やかな洋館の立ち並ぶ繁栄の裏で、水不足に加え、コレラ等伝染病の流行や大火事に悩まされるなど、住民の不便は言語に絶するものでした。

このため、神奈川県は、英国人技師 H.S.パーマー²を顧問に迎え、相模川とその支流の道志川の合流点を水源として、当時のヨーロッパの先進技術を取り入れたわが国最初の近代水道の創設に着手し、明治 20 年（1887 年）9 月に完成しました。

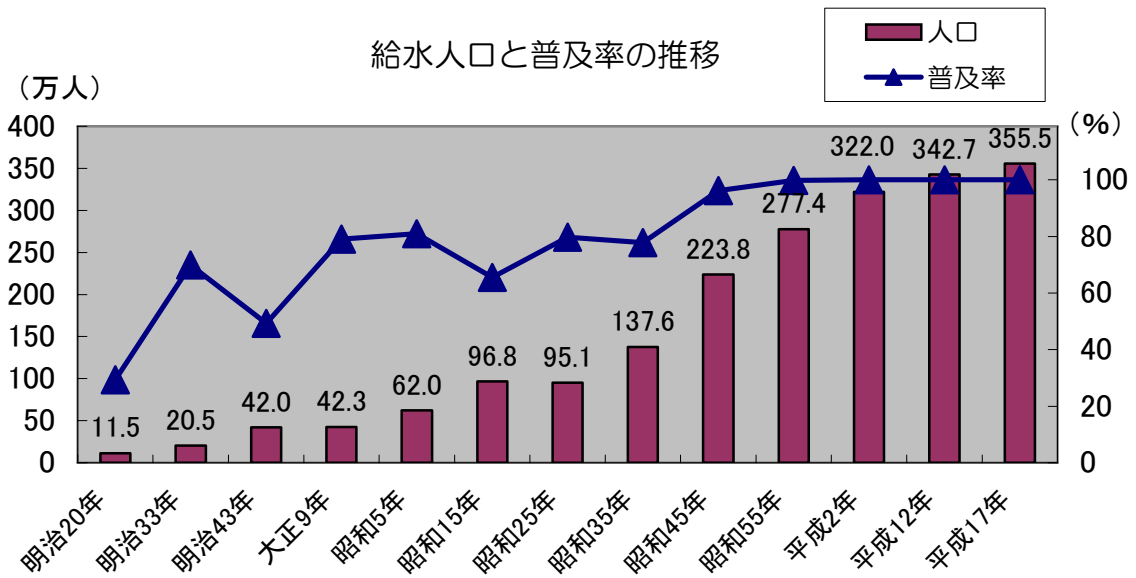
そのころは、まだ水道に関する法律も無く、市制も布かれていない時代で、神奈川県の手によって運営されていました。

しかし、明治 22 年 4 月、市制施行により横浜市が誕生し、翌年 2 月、水道条例の制定に伴い、水道事業は市町村が経営するという原則が確立しましたので、同年 4 月、水道事業は県から横浜市に移管され、市営として運営されることになりました。

以来 119 年余り横浜水道は、関東大震災や第二次世界大戦の戦禍などを乗り越え、発展を続ける市勢、急増する人口に合わせて 8 回にも及ぶ水道施設の大規模な拡張工事を行いました。

一方、相模、城山、三保及び宮ヶ瀬ダムの建設といった水源開発も着実に行われ、現在では、約 360 万人のお客さまのための常時安定した水源を確保するに至っています。

² H.S.パーマー（Henry Spencer Palmer）（1838～1893）香港政府付武官のとき、広東の水道設計後の帰国途中に来日。このとき神奈川県より横浜の水道建設の調査を依頼され、明治 16 年多摩川水源案と相模川水源案をまとめ、工事に際しても顧問工師として招かれ、日本ではじめて近代水道を完成させた。また、東京、大阪、神戸等の水道計画に参加したほか、横浜港の築港工事、横浜ドッグの設計など幅広い分野で活躍した。東京で没し、青山墓地に眠る。



※普及率が低下しているのは、市域拡張によるものです。

～横浜水道の主な出来事～

- 1859年 (安政 6年) 横浜港開港
- 1883年 (明治 16年) H.S.パーマー来日
- 1887年 (明治 20年) 横浜に日本最初の近代水道完成 (給水人口7万人)
- 1889年 (明治 22年) 横浜市誕生
- 1901年 (明治 34年) 川井浄水場完成 第1回拡張工事完成 (1898年～)
- 1912年 (明治 45年) 横浜市水道条例公布
- 1915年 (大正 4年) 西谷浄水場完成 第2回拡張工事完成 (1910年～)
- 1923年 (大正 12年) 関東大震災
- 1929年 (昭和 4年) 震災復興事業完成
- 1941年 (昭和 16年) 第3回拡張工事完成 (1930年～)
- 1945年 (昭和 20年) 横浜大空襲 第二次世界大戦終結
- 1947年 (昭和 22年) 相模ダム (相模湖) 完成
- 1954年 (昭和 29年) 第4回拡張工事完成 (1940年～)
- 1961年 (昭和 36年) 鶴ヶ峰浄水場完成 第5回拡張工事完成 (1956年～)
- 1965年 (昭和 40年) 城山ダム (津久井湖) 完成
- 小雀浄水場完成 第6回拡張工事完成 (1961年～)
- 1971年 (昭和 46年) 第7回拡張工事完成 (1965年～)
- 1978年 (昭和 53年) 三保ダム (丹沢湖) 完成
- 1980年 (昭和 55年) 第8回拡張工事完成 (1971年～)
- 2000年 (平成 12年) 宮ヶ瀬ダム (宮ヶ瀬湖) 完成 (2001年～本格稼働)